

2011年3月期 第2四半期

決算説明会資料



KURODA ELECTRIC Co., Ltd.

黒田電気株式会社

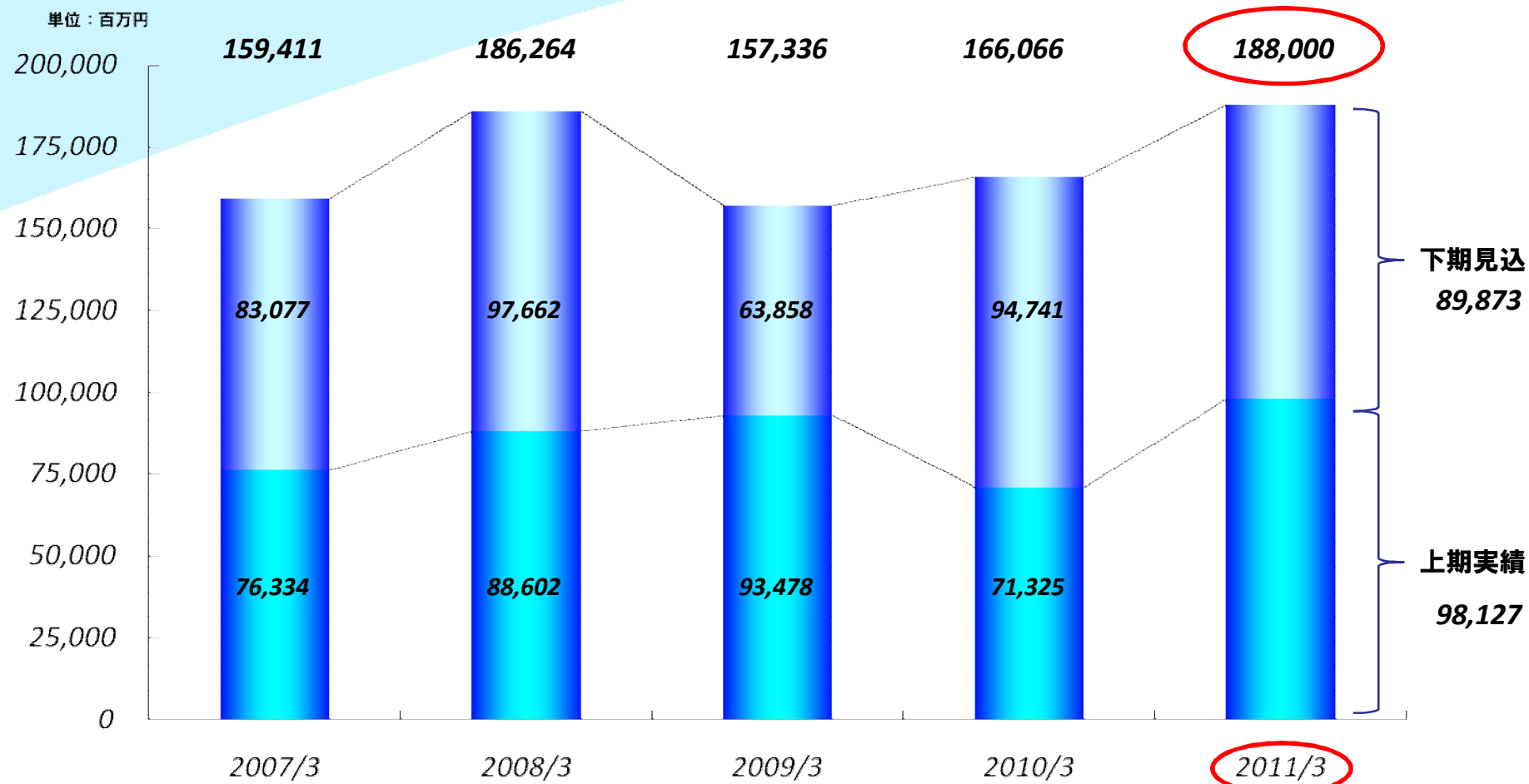
取締役 代表執行役社長

金子 孝

－ 目次 －

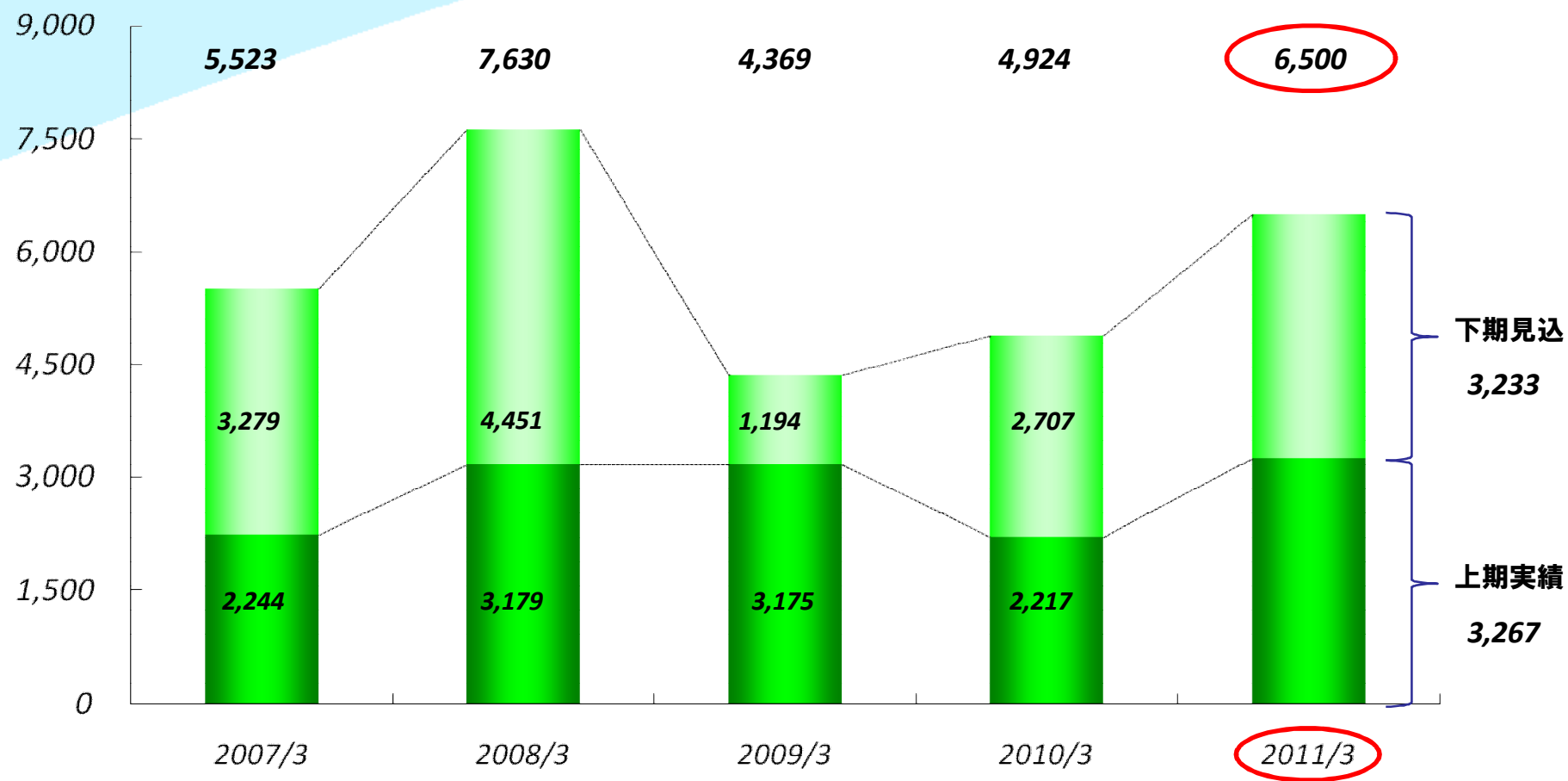
- ・ 連結売上高と営業利益の推移
- ・ 2011年3月期 中間決算概況と下期の見通し
- ・ 商社と製造の比率
- ・ 主要部門の売上推移
- ・ 今後の取組
 - FPD事業
 - 車載事業
 - 太陽電池関連ビジネス
 - 関係子会社の事業
 - グローバル展開事業
 - （インドへの進出・物流力を高め収益性を向上）
 - 積極的な投資による事業領域の拡大
- ・ CSR／環境保護の取り組み
- ・ 財務諸表関連

連結売上高推移



連結営業利益推移

単位：百万円

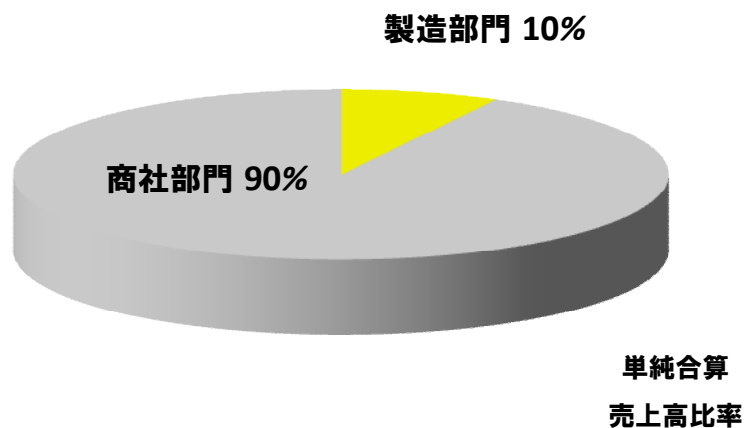


FY2010/9 中間期概況

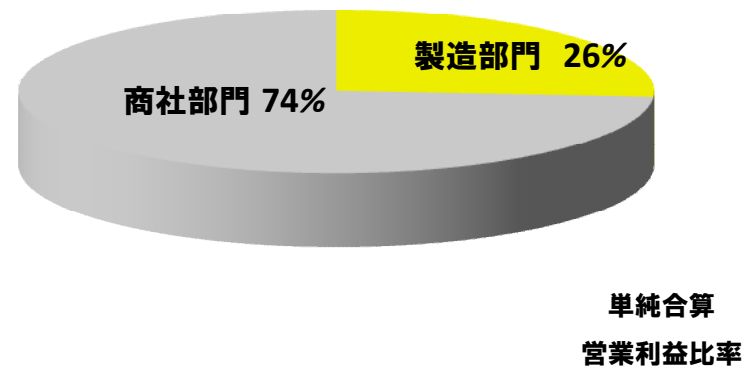
年間	決算業績（連結）	トピックス
売上高	98,127百万円 (前年同期比：137.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ フラットパネルディスプレイ関連は後半に在庫調整局面があったが、高水準で推移し売上増 ■ LEDバックライトモデルや3D化により取扱商品の商材増加により売上増 ■ 自動車関連は駆け込み需要の増加で売上増
販管費	8,681百万円 (前年同期比：138.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高の増加に伴い、物流費の増加があった 前年同期比+1,383百万円 (欧州の火山灰による輸送経路変更対応、日動電工での輸送費追加) ■ 当期より連結対象となった子会社の経費増加(人件費等) 前年同期比+546百万円
営業利益	3,267百万円 (前年同期比：147.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商社部門の売上高増加に伴い、営業利益額も増加 ■ 赤字子会社の収益性が改善、大型案件の出荷による営業利益への貢献 ■ 営業利益率 3.3% (前年実績 3.1%)
経常利益	3,293百万円 (前年同期比：143.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 営業外収益 238百万円：負ののれん 52百万円、受取利息 22百万円 ■ 営業外損益 212百万円：為替差損 95百万円
当期純利益	1,977百万円 (前年同期比：158.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別損失 16百万円：資産除却債務 10百万円、有価証券評価損 5百万円
通期業績 予想	売上高：1,880億円 営業利益：65億円 経常利益：65億円 当期純利益：38億円	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後半は、円高による為替リスク、世界経済の不透明感、各種補助金制度の見直しによる厳しいビジネス環境 ・ 今後の対応策として、①為替変動対策（フルヘッジ精度アップ、コスト改善）②海外法人の現地調達 ③商流と物流の改革 ④継続的な経費節約 等を実行する 	

商社／製造比率（中間期）

売上比率



営業利益比率



= 今後の取組み =

FPD事業

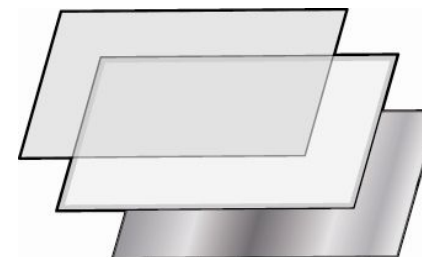
上半期の総括

- LEDバックライト・3Dモデルの生産増加
- 省エネ・高機能化による取扱商材の拡大
- ソーワが設計した基板の量産立ち上がり



下期への施策

- 省エネ・高輝度化に対応した新たな商品PR
- 基板の設計～量産納入製品の拡大
- 単品納入から複合品納入形態への対応



車載事業

上半期の総括

- エコカーを中心とした買換え需要が下支え
1Qは操業日数減などの影響で一時的に売上減少するも、2Qは駆け込み需要で売上挽回
(計画値に対しては若干下回る結果となった)
- 海外向けは中国北米とも伸び悩み苦戦



下期への施策

- 顧客の生産拠点に応じた調達(国内製造・海外製造)
- 地産地消に向けた商品の発掘(投資活動・JVも視野)
- 車体軽量化に向けた製品PRに注力

調達先の選定(日本・中国・マレーシア等)

現地調達対応

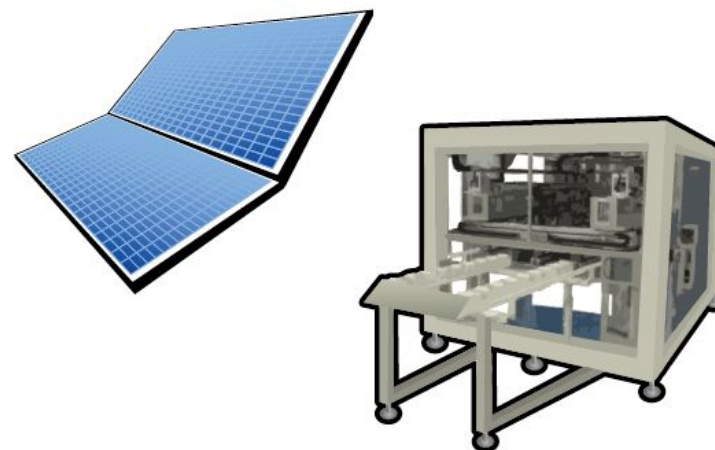
太陽電池関連ビジネス

上半期の総括

- 半田付け装置の予定通り出荷完了
- 副資材の売上減少(シリコン)
- 既納入装置の改造による機能向上対応

下期への施策

- 半田付け装置の納入対応(納期厳守)
- 顧客の開拓(グローバル展開を視野)
- 新たな商材の発掘(主材・副資材他)



半田付け装置の販売及び顧客への設置稼働調整に注力
来年度に向け本格稼働後のサプライ品販売への足がかりを付ける

黒田テクノ 横浜工場



グローバル事業展開

成長市場（特にB I I C s）に対し
事業戦略の再構築、
そして拠点展開を積極的に行う。

- ・ 優良外国企業との取引
- ・ OEM、ODM先との取引
- ・ 各国別のエリア戦略
- ・ 積極的な投資

中国（強化）

- ①液晶関連ビジネス
- ②EMS関連ビジネス
- ③情報通信関連ビジネス

ブラジル

- ①車載関連ビジネス
 - ②液晶関連ビジネス
- ※事業構築を検討中

インド（進出決定）

- ①グローバル企業開拓
- ②家電ビジネス
- ③車載関連ビジネス

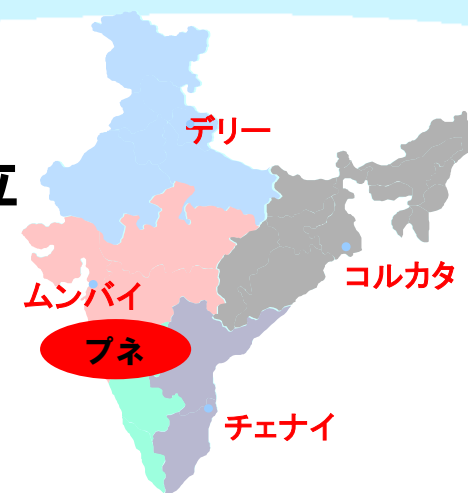
インドネシア

- ①車載関連ビジネス
 - ②電気機器ビジネス
- ※営業体制強化

インドへの進出

ECOREA & KURODA ELECTRIC INDIA PRIVATE LIMITED設立

- ・インド共和国マハシュトラ州ブネ市（ムンバイ市の南方約170km）
- ・総投資額 約20百万ドル
- ・敷地面積 37,600㎡ 延床面積 19,455㎡
- ・樹脂成形品の製造販売、アセンブリ、部品/材料販売
- ・2011年7月操業開始予定



工場外観イメージ

主な生産品目

白物家電用樹脂成形品
（冷蔵庫・洗濯機等）
LCD-TV用外装カバー成形品

主な取扱商品

電子部品
電気材料
基板等（完成基板）



物流力を高め収益性を向上

グローバルビジネスが加速する状況下、新興国・欧米市場への供給体制を強化し、コスト・品質・機能を追求し、収益性の向上を目指す。



大手物流会社との協業し、グローバル物流ネットワークを構築する

積極的な投資による事業領域の拡大

2008年3月

ソーワコーポレーション子会社化

2009年4月 ソフィアシステムズがソーワコーポレーションの子会社に

川上/設計ビジネスと川下/部品ビジネスの融合

2009年10月

日動電工子会社化

電力資材を中心とした製造販売（エネルギー分野）

樹脂成形品製造・新興国への進出

2011年7月稼働予定

ECOREA & KURODA ELECTRIC INDIA PRIVATE LIMITED

今期計画案件

- ・ FPD用新素材関連
- ・ 車載関連の加工メーカーとのJV

戦略的グローバル投資

投資環境

継続的な成長

地域・事業領域の拡大
戦略的投資

戦略的なグローバル投資

地域事業戦略 (ECOREA)

エネルギー (日動電工)

太陽電池 (黒田テクノ)

設計部門 (ソーワ&ソフィア)

FPD (コムラテック)

商社 事業領域の拡大

黒田グループ

- ・ 円高基調である現在は、海外向け投資に対して追い風
- ・ 製造拠点が海外へ移転し、現地調達化が加速
⇒ 円高であっても影響を受けにくい企業基盤の確立

CSR/環境保護への取り組み

継続中

ISO9001-14001 黒田電気グループのグローバル統合ISO

2010年9月にグローバル統合ISOの維持審査を終了しました。
当社は品質と環境の両側面から、黒田電気グループとして統一された方向性のもと、今後もグローバルな視野で積極的な取り組みを行ってまいります。



かけがえのない地球のために ⇒ 地球環境貢献活動：企業の森

2010年8月、「企業の森・黒田電気（青梅）」において第2回目の下草刈りイベントを開催し、社員のCSR活動の意識付け、コミュニケーションの強化を図りました。
また、関西地区における企業の森活動を来春に開始予定で準備を進めております。



新たな取り組み

・ **次世代を担う子供たちに今、出来ること・・・**
タイのバン・パライ村に2階建て校舎の建設を決定しました。
（来年夏に完成予定）

当社は、今後も長期的な視野に立って、当社が進出している国々を中心に、次世代を担う子供たちへの教育支援活動を展開してまいります。



2011年春 完成予定 新社屋イラスト



End of File